

令和4年度 第3回 春光台・鷹の巣まちづくり推進協議会 会議録

会議概要	
日 時	令和5年1月27日(金曜日)午後6時30分から午後8時00分まで
場 所	旭川市春光台公民館講座室
出席者	<p>委 員(13名, 50音順)</p> <p>伊藤委員, 伊林委員, 上森委員, 大久保委員, 小原委員, 菊池委員 高橋委員, 竹内委員, 玉井委員, 早坂委員, 福屋委員, 宮上委員, 横山委員</p> <p>(欠席者: 水野委員, 山本委員)</p> <p>事務局 春光台公民館: 日比野館長, 藤村専門指導員, 高橋事務 旭川市地域まちづくり課: 成田課長, 木下主査</p>
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1: 春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラム(案)
	資料2: 令和5年度の地域活動について
	資料3:
	資料4:
	資料5:
	資料6:
	資料7:
	資料8:
	資料9:
	<p>その他配付資料(参考資料))</p> <p>○旭川市立高台小学校 令和5年度グランドデザイン(案) ○旭川市立春光台中学校 令和5年度学校経営構想図</p>

議事の内容

1 令和5年度春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラムの改訂

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

資料1：令和5年度春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラムの改訂について説明

- 今年度の活動を振り返り、来年度の活動を考える上での指針となるものである。
- 地域まちづくり推進事業の補助金を受給するためには、プログラム内に地域の課題となるものが記載されていることが条件となっており、その内容については、毎年見直しを行うことになっている。
- 本日の会議において委員の皆様からご意見をいただき、次回の会議において令和5年度の春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラムの改訂案についてお示しをしたい。

【委員】

- 鷹の巣福祉村地区では、20年ほど前から環境懇話会を実施しているが、P5の実施主体の欄に鷹の巣福祉村地区環境懇話会を入れていただきたい。

【会長】

- 春光台・鷹の巣まちづくり推進プログラムの中に記載するのではなく、鷹の巣福祉村地区市民委員会の活動として対応していただくのがよいのではないかと考える。

【会長】

- P2：教育、文化、スポーツ振興の項目の「子どもの生活習慣改善(全域)」については、地域と公民館が連携した通学合宿の開催ではなく、地域と学校が連携した開催なので、「地域と学校が連携した通学合宿の開催」に記載を訂正すべきである。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- P2の単身高齢者世帯の孤立対策の部分で災害時要支援者の避難実施訓練について、地域で認識している諸課題の部分に要支援者対策を明記し、課題解決の取組に災害時避難要支援者の避難実施訓練事業、実施主体に多世代ふれあい交流会実行委員会を明記してはどうかとの意見を事前に伺ったが、これで良いか。

【会長】

- 良いのでは。地域の目標である「安心・安全・元気で仲よく暮らせるまちづくり」を念頭に事業を進めていかなければならないと考えており、コロナの関係でこの3年間は実施できていないが、コロナが終息に向うことで実施できるようになれば、地域の目標を達成することに繋がるのではないかと考える。

【会長】

- 来年度の活動のメインになるのは、防災心得改定事業であるが、他の事業も大切であるので、包括型補助金の予算をやり繰りしながら、事業計画を立てられれば良い。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- 災害時避難要支援者の避難実施訓練事業を推進プログラムの内容に載せるかどうかだけの問題であり、来年度の予算とは直接関係がない。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- P3の実施主体の項目の中にある春光台「文学の小径」友の会・「道ありき」春光台における足跡「坂」の名称公募実行委員会については、実行委員会が解散されるので記載から削除して良いか。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- P3・P5に市への要望・地域からの提案という項目があるが、この項目については内容的に地域では対応することが難しい事柄について記載することになっている。
- 要望や提案についての回答は各部局からいただいているが、過去に出された要望や提案と重複するものについては、各部局への連絡は行っていない。ただし、再度検討を求めたいものがある場合については連絡をいただきたい。

【会長】

- P5の市営住宅跡地の活用方法について、管理面も含めて早急に対応していただきたい。また、ソーラーパネルなどが設置され、耐用年数が過ぎた後もそのままに放置されたりするようなことにはならないようにしてほしい。

【委員】

- 放課後に子どもたちが自由に利用することのできる児童センターなどの施設を建設していただけると子育て世代の親としては大変ありがたい。

【会長】

- 春光台の未来プロジェクトなどを活用し、若い世代の子どもたちにも市営住宅跡地の活用方法について考えてもらってはどうかと考える。
- 春光台中学校がそろそろ建て直しの時期にきているように思うので、市営住宅跡地に中学校を移転させ、小学校の校舎とつなげることで小中連携の一貫教育を実現させてはどうかとも考えている。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- 市営住宅跡地の活用について、関係する担当部局へ要望事項として伝達する。

2 令和5年度の地域活動について

【事務局】

資料2：春光台・鷹の巣地域 令和5年度の地域活動について説明

- 包括型の事業については、(1)防災心得改定事業をメインにして、(2)災害時避難要支援者の避難実施訓練事業、(3)子ども支援事業の3事業を来年度は実施していきたい。また、地域提案型の事業については、春光台畑づくりプロジェクトを来年度も引き続き実施してはどうかと考えている。さらに、令和6年度からの地域活動を策定するために地域住民の要望や意見を把握する活動をまちづくり推進協議会の中で進めていきたい。

【会長】

- 防災心得改定事業は、来年度の中心事業として優先的に行っていただきたい。
- 災害時避難要支援者の避難実施訓練事業については、コロナの関係から昨年度は実施することができなかったが、今年度は各町内会の理解や協力体制を広げる中で実施できるようにしていきたい。
- 災害時避難要支援者の避難実施訓練事業については、各市民委員会や社会福祉協議会にも関係する事業なので、機会があるごとに各町内会の会長さんたちに理解や協力を求めている。
- 子ども支援事業については、前回の会議の中で委員の方から出されていた内容なので、方法等を工夫しながら実施できるように検討していきたい。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- 包括型の事業については、3事業以上を行うことで、旭川市から最大40万円の補助金を受けることができる。対象事業の中で、補助金について、一定程度やりくりができる仕組みになっている。

【会長】

- 防災心得改定事業でどの程度の費用がかかるかによって、他の事業で使える予算が決まってくる。

【事務局：旭川市地域まちづくり課】

- 地域提案型の事業については、包括型の事業とは別予算で行われる事業であり、春光台・鷹の巣地域では、春光台畑づくりプロジェクトを地域提案型の事業として申請し、実施された。
- 春光台畑づくりプロジェクトについては、来年度も実施する予定として予算要求を行っている。

【委員】

- 春光台畑づくりプロジェクトについては、今年度も継続して実施していきたいと考えており、土作りからの継続した関わりを行うことや春光台地域の成り立ちなどについても学習できる場にしていきたいと考えている。
- 多くの世代が交流しながら、継続して関わることでできる場にしていきたい。
- 春からは、各町内会との関わりや春光台・鷹の巣地域で行われているフラワーロードとの関わりなども模索しながら、地域との交流の場を広げていきたいとも考えている。
- フラワーロードの実施日や時間帯について、若い世代の家庭状況なども考慮しながら日程を工夫をしていただけるとありがたい。

【委員】

- 前回の会議では、令和6年度からの地域活動を策定するために地域住民に対してアンケート調査を実施してはどうかとの話になっていたが、活動のための予算が無いことや2800世帯余りの地域住民全員からの意見を集約することは現実問題として難しいことから、地域における各組織の代表者が集まっているまちづくり推進協議会の各委員が、それぞれの組織の中で課題となっていることをまとめて持ち寄ることで、地域として、今後の課題を明確にしていくのがよいと考える。

3 その他

【委員】

その他資料：旭川市立高台小学校 令和五年度 グランドデザイン(案)、旭川市立春光台中学校 令和5年度 学校経営構想図について説明

- ここ数年、地域と学校が交流することのできる機会が無く、学校が子どもたちをどのように育てていきたいと考えているかを知っていただき、地域との結びつきをさらに強めるために、小中学校における令和5年度の学校経営に関するグランドデザイン(案)を持参した。
- 小中学校では、ここ数年子どもたちを取り巻く環境が大きく変化してきており、特に小学校では、令和元年から子どもたちの数が毎年30名ずつ減少しており、平成の終わりには600名いた子どもたちが、3年後には350名まで減少してしまう状況である。

- 高台小学校では、「見付けたい・かかわりたい・挑戦したい」高台っ子の育成～気持ちの良い挨拶が響き合う春光台地域と共に～を令和5年度の重点目標に掲げ、地域の皆様と共に挨拶が響き合う地域づくりを目指していきたいと考えている。
- 中学校も小学校と同様にめざす生徒像を持っており、中学校が求めている生徒像の内容も小学校とほぼ同様のものであり、中学校も挨拶を基盤に子どもたちの育成に努めていきたいと考えている。
- 令和5年度からは、少しずつでもいいので地域の皆様と一緒に学ぶ機会が増えていければよいと考えているので、小中学校へのご理解とご協力をお願いしたい。